上田八木短資

ウィークリーシグナル

2025年4月18日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

（単位：億円）

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/21 (月)	▲ 700	＋ 2,800	＋ 2,100	国庫短期証券発行償還 （3M・1Y） 各種財政資金の支払い	国債補完供給　＋ 1,600		米：景気先行指標総合指数（3月）
4/22 (火)	トン	＋ 7,000	＋ 7,000				
4/23 (水)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	流動性供給			・G20財務相・中央銀行総裁会議（ワシントン） 米：地区連銀経済報告（ベージュブック）公表 ：PMI（4月）
4/24 (木)	▲ 2,000	＋ 4,000	＋ 2,000				米：新規失業保険申請件数（4月19日終了週）
4/25 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	申告所得税揚げ			日：東京CPI（4月）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆500億円増加の527兆3,700億円から始まった。その後、年金定時払いや国債発行等の要因により増減し、18日は538兆700億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.477%～0.650%のレンジ、1M～3M物0.545%～0.630%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、25日に東京CPI（4月）の公表、海外では23日にG20財務相・中央銀行総裁会議（ワシントン）の開催、米地区連銀経済報告（ベージュブック）の公表などがある。

［無担保コールレート］

	予想レンジ（%）
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.70
2M	0.55 ～ 0.75
3M	0.58 ～ 0.80
6M	0.65 ～ 0.90

［オープン市場］

	予想レンジ（%）
現先 （on/1w）	0.40台
CP 3M	0.60 ～ 0.70

<レポ>

足許GCは週を通して+0.48%~+0.50%のレンジで推移した。輪番オペのあった16日の取引も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~372回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約9,900億円で、週間償還額の8,500億円を上回った。発行残高は先週末時点の21兆9,264億円から、4月17日時点で22兆7,581億円に増加した。

発行市場は、鉄鋼、食料品、ガス業、卸売業、サービス業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では、0.50%台前半から0.60%台前半での出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台半ばと幅広いレンジでの発行気配が見られた。

来週の償還額は2兆6,600億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、17日の中川審議委員の発言にも見られるように、米国の関税政策の影響についての不透明感が一層高まり、日銀の利上げ観測が後退。1か月物に関しては0.50%台前半、3か月物に関しては0.6%台半ばから0.60%台後半と、先週比で若干目線を下げつつも、投資家が運用金利を見極める局面を予想する。

<TDB>

4月17日の1Y（1300回債）の入札は、最高落札利回り0.5454%（前回債0.6275%）、平均落札利回り0.5292%（前回債0.6184%）となった。
4月18日の3M（1301回債）の入札は、最高落札利回り0.4329%（前回債0.3572%）、平均落札利回り0.3716%（前回債0.3468%）となった。
来週の入札は25日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社　登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243号　加入協会 日本証券業協会